

【資料3】

三方湖周辺のふゆみずたんぼに飛来するコハクチョウ類

1 調査の目的

平成17年以前の三方五湖周辺では、11月から12月にかけてコハクチョウの飛来が観察されることがあったが、滞在は一時的であり、越冬例は確認されていなかった。福井県海浜自然センターでは、平成18年秋から三方湖に近接する地区の農家に呼びかけ、ふゆみずたんぼの面積拡大に協力していただいている。また、同年度から、コハクチョウ類、ガン類など大型水鳥類の越冬環境にふゆみずたんぼが寄与する効果を検証するため個体数調査を継続している。

2 調査地と方法

三方湖南部の若狭町鳥浜地区、向笠地区（図1）のふゆみずたんぼにおいて、平成22年11月21日から平成23年3月18日までの期間中、主に午前8時30分前後の時間帯に確認されたコハクチョウの個体数を8～18倍の双眼鏡を用いて計数した。



図1 調査地位置図（写真提供：若狭町）

3 結果と考察

三方湖周辺ではふゆみずたんぼの面積が約2haに拡大した平成18年度から、越冬する個体群が観察されるようになった。22年度は11月21日にコハクチョウ8羽が鳥浜地区で最初に確認された。その後1月18日までは、降雪のため観察できなかった12月31日と1月1日を除いて4羽から12羽のコハクチョウが継続して観察された。1月に入ってからふゆみずたんぼはシャーベット状の雪に覆われたが、コハクチョウは引き続き離着陸や休息に利用していた。また、着陸したふゆみずたんぼに隣接する水田で、雪の上に出た二番穂を採餌する行動が観察された（図2）。

1月16日から大雪となり、1月19日には積雪のため調査地にアプローチできなくなった。双眼鏡での遠距離からの観察では、二番穂が雪に埋もれた状態となり、採餌ができないと推測された。このような状況は2月上旬まで続いた。次に観察されたのは2月13日で、その後は3月18日まで4羽から16羽のコハクチョウが観察された（図3）。

前年度に比較して飛来数が増加したのは、前年に麦の転作地となったところが水田に戻されて、ふゆみずたんぼの面積が増加したことに加え、二番穂の実りも良かったことが原因と考えられた。



図2 雪上に出た二番穂を採餌するコハクチョウ (2011年1月7日 若狭町鳥浜)



図3 ふゆみずたんぼで休息するコハクチョウ (2011年2月26日 若狭町鳥浜)

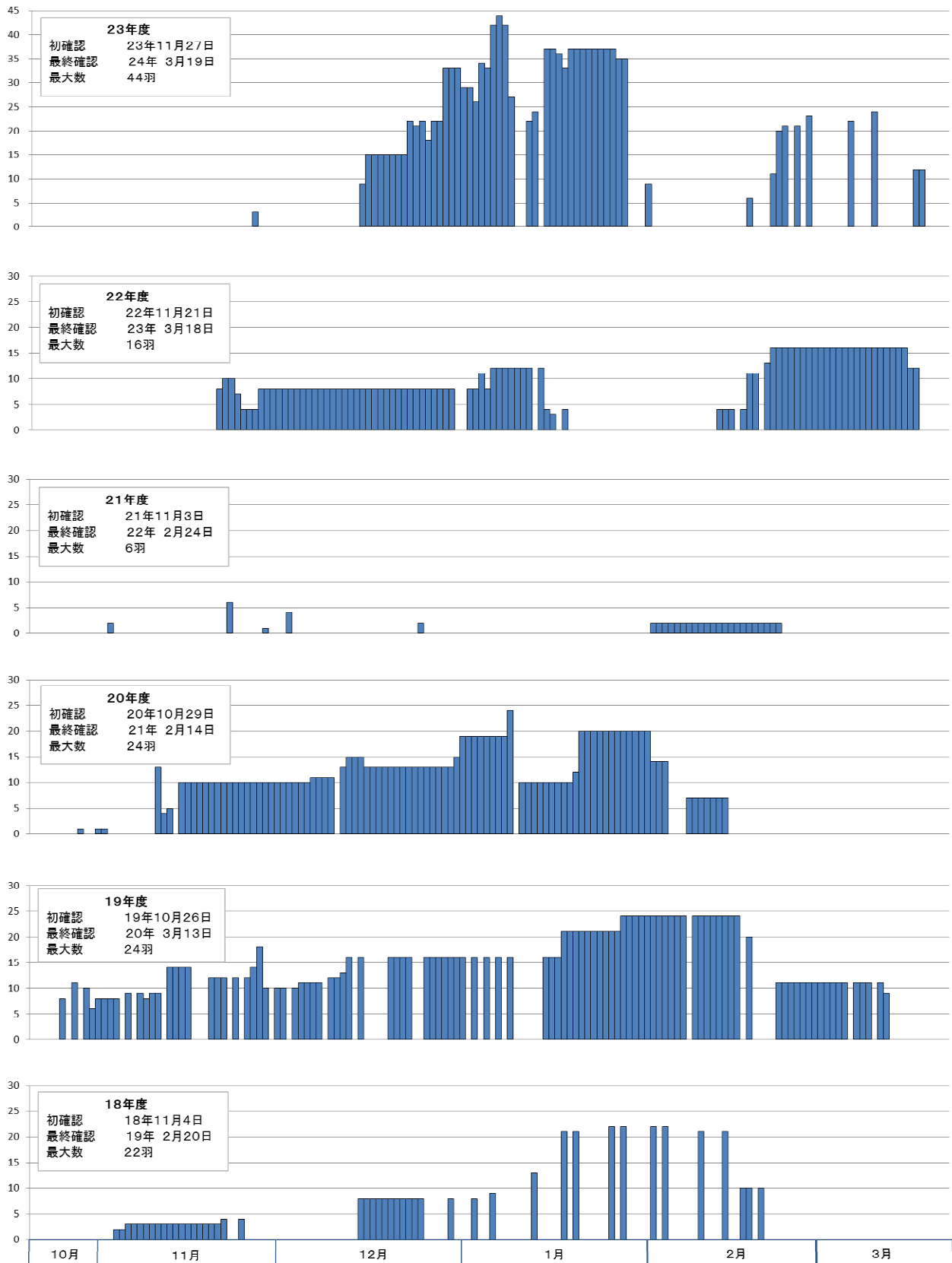


図4 確認されたハクチョウ類の個体数（18年度～23年度）